

不快な音がスッと消えた！
聞こえもぐんとよくなった！

耳鳴り・難聴

に効く名療法



「安心」2006年10月号 永久保存別冊付録

平成18年10月1日発行（毎月1回1日発行）安心第24巻第10号

「耳鳴り・難聴」に効く名療法

突発性難聴の完治例は 一六〇例以上

私は、約三〇年前に感音性難聴（内耳、聴神経、脳に原因があつて起こる難聴）を患い、現在は両耳ともほとんど聞こえない状態です。

発症後はいくつもの病院、治療院を回ってみましたが、聴力は戻りませんでした。

「ならば自分で治すしかない」と鍼灸師を目指し、学校に通いながら三年間、一日おきに鍼治療をくり返しました。しかし効果はなく、けっきょく「慢性化した難聴は治らない」とあきらめました。

鍼灸師として治療を始めてからも、感音性難聴は治せない、私は思っていました。突発性難聴が治つ

●V字回復マッサージ
首の筋肉をゆるめて耳への血行をよくし難聴や耳鳴りを改善する首のV字回復マッサージ

一筆堂治療院長 藤井徳治

たケースは数例ありましたが、いずれも発症後一週間以内の人ばかりというのが現状でした。

ところが、平成十五年の九月、発症から二ヵ月たった突発性難聴の患者さんが来院し、私の認識は変わりました。「治癒例はない」とお話ししたうえで治療したところ、なんと一〇回めで聞こえるようになったのです。

この症例は、初期治療のチャンス逃した患者さんでも、早めに鍼治療を始めれば、快方に向かう可能性があることを示しています。私はその可能性を追求しようと、以後、突発性難聴を含む耳のトラブルの治療に、本格的に取り組み始めました。

その結果、突発性難聴には鍼の集中治療がかなり有効だと、データで

明らかにになりました。当院に、平成十七年十一月末までに、耳のトラブルを主訴として来院された四九九人中、二七〇人が突発性難聴の患者さんでした。このうち一〇六例が、厚生労働省の特定疾患調査研究班の診断基準に基づき、完治したのです。その数は、今年八月八日現在で一六七例へとふえています。

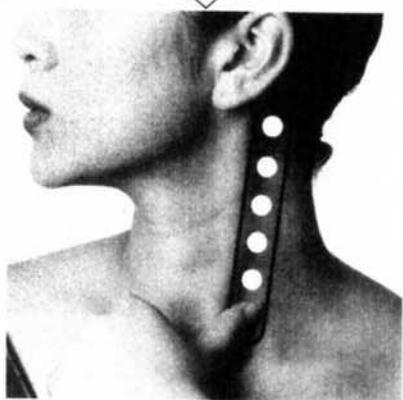
たとえば、軽・中程度の突発性難聴で、発症後三週間以内に集中治療を始めた場合は、ほぼ一〇〇%完治に至っています。全失聴などの重症例でも、同じく三週間以内に治療を開始すれば、大幅な回復が望めます。発症から二ヵ月以上経過した人、病院で回復不能の宣告を受けた人の中にも、完治に至ったケースが確認されています。

突発性難聴に伴う耳鳴りや耳閉塞感、めまいなどの症状も、鍼治療で治ります。急性低音性感音難聴、メニエル病、ムンプス難聴、外リンパ瘻など、突発性難聴以外の難聴に有効例が出てきているのも朗報です。

※治療のお問い合わせ
☎03(3591)0505〈東京都港区〉

首のV字回復マッサージのやり方

※1日1回以上、毎日行ってください



V字筋(胸鎖乳突筋)の位置



鎖骨の内側の端と、耳の後ろにある突起した骨(乳様突起)をつなぐ筋肉。首を左右にねじったとき、反対側の首の側面に現れる

やり方

- ① 首を左右にねじってV字筋を確認し、始点となる乳様突起の後ろ側に、同じ側の親指の腹を置く
- ② 鼻から3秒かけて息を吸い、2秒間息を止める
- ③ 口から10秒くらいかけて静かに息を吐きながら、気持ちよさが感じられるようゆっくり指に力を入れて軽く押す
- ④ 指を筋肉の後ろ側に沿って少しずつ下げながら、②～③の要領で、終着点となる鎖骨まで、5～6カ所押す

それに加え、V字筋を緊張させない日常生活を心がけることも大切です。V字筋の緊張は、主として持続的な首の前傾姿勢で起こります。デスクワークをしているときも、ときどき首を起こして筋肉をゆるめるようにしましょう。

このマッサージは一日一回以上、毎日くり返します。頭・首部に、なんらかの症状がある場合は、それだけV字筋の緊張度も高いので、念入りに行ってください。毎日行えば、老化に伴う聞こえの悪さから、耳鳴りやめまい、頭痛、不眠、うつに至る、首から上の症状全般に効果が期待できます。

す(やり方は上を参照)。片方の耳にトラブルがある場合は、患部側の筋肉を集中的に、両耳にトラブルがある場合や、耳以外のトラブル解消が目的の場合は、両側の筋肉を均等にマッサージしてください。

※藤井徳治先生の著書のプレゼントのお知らせが35頁にあります

頭痛や不眠、うつ状態まで改善する例も

もう一つの大きな特長は、首の前面にある「胸鎖乳突筋」を重視し、そこをほぐす治療をとり入れている点です。

胸鎖乳突筋は、鎖骨の内側の端と、耳の後ろにある突起した骨(乳様突起)をつなぐ筋肉で、首を曲げた

なぜ当院では、これほどまでに耳への効果が出ているのでしょうか。実は、かつて私が経験した鍼治療と、現在私が行う治療の最大の違いは、刺激の強さにあります。従来、難聴には長くて太い中国鍼を使っていた、痛い治療で対処するのが一般的でした。

しかし、私が鍼灸師として目指してきたのは、「痛みがない、気持ちのよい鍼治療」で、耳の治療にもその姿勢を貫いています。これが好成績を引き出しているようで、「もっと強い刺激を」と希望される患者さんは、治りも悪いようです。

V字筋は、のどぼとけの下を中心に、首を斜めに走っています。そのため、V字筋が常に緊張していると、絶えず首を絞められているようになり、その結果、筋肉のすぐ上にある内耳の部分への血行が阻害されます。耳のトラブルで来院された患者さんの口から、「のどの奥に玉が詰まっているようだ」という言葉が

しばしば聞かれますが、これはまさにV字筋が緊張していることを示しています。

また、V字筋の下には、たくさんの血管、神経が走っています。V字筋が強く緊張すると、そうした血管、神経も圧迫されて、首を中心に広範囲に血行不良が起こってきます。V字筋をゆるめる治療は、耳に限らず、首から上のあらゆる症状の改善・予防を促す可能性があるのです。

事実、突発性難聴の人の多くは、耳の症状とともに頭痛や不眠、うつ症状を抱えています。しかし、V字筋の緊張がほぐれてくると、こうした症状も一掃されます。うつ病で休職中に耳が聞こえなくなり、治療を開始したところ、聴力とともに元氣も回復されて、みごとに職場復帰された患者さんもありました。

V字筋は、自分でマッサージをしてほぐすこともできます。

私は家庭療法として、患者さんに「首のV字回復マッサージ」と名づけたマッサージ法を指導していま